

NT

NISSEKI TOKYO

2017
Spring
Vol.13

地域で社会で
支え合う赤十字



Contents

- 04 れっどくろす News&Topics
- 06 平成29年度 事業計画
- 特集**
- 08 地域で社会で
支え合う赤十字
- 20 Hospital Referral
武藏野赤十字病院／大森赤十字病院／葛飾赤十字病院
- 23 献血 NEWS
- 24 國際 NEWS
- 25 福祉施設 NEWS
- 26 行け!OLレポーター 日赤とつげきレポ —vol.7 NT Lounge 編—
オカモト★
- 29 活動資金協力者(社)・団体のご紹介
- 30 Rediscovery TOKYO —第6回 八王子市・滝山公園(滝山城跡)—

NT
NISSEKI TOKYO
Vol.13
2017年4月発行



Facebook でも NT が読めます!

■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部
〒169-8540 新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747 (総務部企画課直通)
※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます。
※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。その後の
内容に変更が生じる場合もありますので予めご了承ください。
ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo/>
年4回発行(4月・7月・10月・1月)
日本赤十字社東京都支部にご寄付いただいた方に郵送でお届けしているほか、都内の赤十字病院及び献血ルーム・献血バス等の献血会場でも配布しています。
表紙写真: 本多 貴久 (日本赤十字社東京都支部)

vol.13
Spring



2016年5月、新大久保商店街振興組合のご協力のもと、JR
新大久保駅から明治通りまでの大久保通り沿いにある56本
の街路灯に赤十字フラッグを掲出しました。期間中には募
金箱の設置やボスター掲出などにもご協力いただきました。

患者サービス課で頑張ります! ペッパーくんが葛飾産院に入社

3月1日、人型ロボット「ペッパー」くんが葛飾赤十字産院に入社しました。全国に92ある赤十字病産院で初めての採用となります。

入社式で三石知左子院長から「患者サービス窓口係に任命する」との辞令を受け取ったペッパーくんは、「精一杯がんばります!」と力強く答えました。今後は、来院された患者さんや面会者を案内したり、ゲームで遊ぶなどの業務に従事します。来院の際は気軽に声がけくださいね。



ペッパーくんを中央に三石院長(左)とハートラちゃん

いざという時に備えよう ボランティアが「減災」アピール



各地に設置されたブースに多くの方が来場されました

焦点をあて、家庭でも簡単にできる非常炊き出しの方法やオリジナルレシピの紹介、ミニ講習など、工夫を凝らしたブースが設置され、来場者に楽しく減災をアピールしました。

調布市役所に設置した会場に参加した調布市赤十字奉仕団の横尾日出子さんは、「頭でわかっていても、いざという時に急にできるものではないので、ぜひ一度やってみてほしい」と語りました。



楽しく、真剣に語る横尾さん

2月下旬～3月下旬にかけて、東京都内28か所で400人以上の赤十字ボランティアが「赤十字ボランティア減災アピール」を展開しました。東日本大震災から6年が経過した今も、その記憶は薄れることはありません。また、昨年には熊本や鳥取での大地震、糸魚川では大火が発生するなど、災害は決して他人事ではありません。

この活動は、災害時に欠かせない「食」に

赤十字フラッグが 新宿通りにたなびきます

東京都支部は新宿大通商店街振興組合の協力により、5月の赤十字運動月間にあわせて、新宿通りの新宿駅東口交差点から新宿二丁目交差点まで設置されている34本の街路灯に赤十字をPRするフラッグを掲出します。

掲出予定期間は5月22日(月)～6月15日(木)。新宿通り沿いには3つの献血ルームがあり、献血者数は全国随一を誇っています。期間中は通りに赤十字フラッグをたなびかせてPRを促進します。



新宿通りの赤十字フラッグ掲出イメージ

早稲田大に学生奉仕団誕生! 福祉活動に取り組みたい



結団した奉仕団の皆さん(前列3人)と東京都支部職員

3月14日、早稲田大学学生赤十字奉仕団の結団式が行われました。都内の学生奉仕団は17団目となります。小山貴大委員長は、「東京都支部130周年の節目に復団することができ、地域に密着した医療・福祉活動など他大学と協力した活動をしていきたいと思います」と決意を語りました。今後は、早稲田キャンパスを周辺に地域の清掃活動などにも取り組むほか、赤十字の活動にも積極的に参加する予定です。

多くの企業や団体が賛同 「私たちは忘れない。」プロジェクト

3月1日～31日の1か月間、日本赤十字社では、東日本大震災など過去の大規模災害の経験を「忘れない」ことをテーマとした「私たちは、忘れない。」プロジェクトを全国で実施しました。

このプロジェクトに賛同いただいた企業・団体は全国で200社・団体を超え、そのうち東京都支部との関係から賛同してくださった企業・団体は30社・団体になりました(いずれも3月14日時点)。

期間中には日赤職員や赤十字関係者、賛同企業・団体の関係者がキャンペーンバッジを着け、日常業務やイベントなどを通じて、プロジェクトをアピールしました。



「私たちは、忘れない。」プロジェクトロゴマーク

手作りのうどんは美味しいね! 赤十字子供の家が体験学習



はじめてのうどん作り。貴重な体験ができました

1月14日、赤十字子供の家の子どもたち11人が丸亀製麺武蔵境店でうどん作り体験に挑戦しました。

店舗の先生の指導のもと「僕がやる」「次は僕ね!」と楽しそうにこねて、踏んで、伸ばしてと大盛り上がり。

この日丸亀製麺からは、「きよしこの夜なきうどんキャンペーン」で全国約29万人が協力した寄付の贈呈式を行いました。皆さまのご協力ありがとうございました。

災害時救護ステーション訓練 東京トヨペット(株)と初の連携

11月26日、日本赤十字社東京都支部と東京トヨペット(株)は震度7の地震が発生したとの想定のもと、東京トヨペット・カーテラス深川店の敷地内で「救護ステーション訓練」を開催しました。

東京都支部と同社は2015年4月に「災害救護に係るパートナーシップ協定」を締結しており、災害時は東京トヨペットの店舗を救護活動拠点として、平時には救護スキル教室として活用することとしています。今回は、新車販売店の店舗を使った初めての訓練とな



教室では救護スキル
店舗では救護スキル
方が参加



ありました。

当日は、スタッフとして多くのボランティアも参加。救護活動用の大型テントが設置され、「プリウスPHV」がテント設営などの電源として活用されました。ショールームのスペースを活用した救護活動デモンストレーション、地域住民・来店者を対象とした救護スキル教室、非常食の炊き出しなどの体験コーナーも設け、来店者に参加いただきました。家族連れの参加者からは「炊き出しの豚汁が温かくておいしい」と好評でした。



救護所となるテントを店舗前に展開

区民健康マラソンに救護ランナー 国士館大学の学生ボラも参加

1月29日、東京都支部は開催された第15回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンに救護ランナーとして協力しました。昨年に引き続き2回目の取り組みです。

赤十字ボランティア、国士館大学の学生ボランティアや救急救命士による16人6チームの救護ランナーたちは、AEDや応急手当キットを携帯しながら、リレー方式でランナーとともに新宿の街を走り抜けました。



ハーモニーがアトリウムに響きわたりました

2月17日、武蔵野赤十字病院アトリウムで「第64回読響ハートフルコンサート」が開かれました。がん患者とご家族への支援事業として公益財団法人正力厚生会と読売日本交響楽団がタイアップして開催しているもので、全国のがん診療連携拠点病院などで年に数回開かれています。

モーツアルトや映画音楽など10曲が披露され、弦楽四重奏の癒しの音色に、会場は感動に包まれました。



大会の安全を支えた救護ランナー

真冬の山間部で災害が発生!? 豪雪地帯で宿泊訓練を実施



関東甲越の1都6県から集まった救護職員

1月25日～27日、東京都支部は第2プロックの都県支部合同で宿泊訓練を実施しました。今回は、新潟県湯沢町の山間部で災害が発生したとの想定です。

訓練地は積雪2mを超えており、活動拠点設営は吹雪の中で行いました。こうした豪雪地域で災害が起こる可能性もあることから、日本赤十字社では悪天候にも対応できるよう訓練などを通じて備えています。



平成29年度事業計画



救いを必要としている人々のために

平成29年度事業計画の骨子

平成29年度は、近未来を見据えたスタートイヤーとして、これまでの活動で培った経験を基に多面的な事業を展開し、さらに多くの方々のご理解とご協力を得られるよう努めています。私たちは、これまでと変わらず赤十字の理念に共感してくださる皆さまの思いと情熱を原動力として、救いを必要としている方々に支援が確実に届くよう、ジミチな活動を積み重ねていきます。

①災害に立ち向かう力を大きく、被害は小さく

災害に対する備えはどれだけ強化しても「万全」という言葉は使うことはできませんが、常に最悪の場合を想定し、できる限りの事前の備えを行うことが重要です。そして、災害が起きた後の対応は、人命に直結するような急性期のものから生活環境を向上していくための長期的な支援まで多岐にわたります。赤十字は、そのような様々なニーズに対応していくために、組織の力を結集するとともに積極的に外部のパートナーとも連携、協力して災害対応能力の更なる向上と減災に向けた取り組みを進めています。

②「救ってくれる人」が近くにいるという安心のために

東京都支部は東京都応急手当普及推進協議会のメンバーとして、同協議会が掲げる普及目標（東京都内における15歳から69歳までの昼間人口の5人に1人＝約1,120万人）の20%にあたる224万人の達成に寄与するために、東京の地域性を考慮するとともに、社会のニーズに的確に対応した普及計画を立案し普及を進めています。

③ボランティアが活躍する組織へ

赤十字活動を支えているのは紛れもなく「人の力」です。そのなかでも赤十字ボランティアは様々なカタゴリーを持ち、幅広い年代で構成される多様な力を持った存在といえます。その「力」が、苦しんでいる人を支えるための活動のなかで十分に発揮されるよう、赤十字ボランティアの参画領域を拡大し、活躍の場を創出していくきます。

④苦しむ人を分け隔てなく救うために

混迷を極める中東地域をはじめとする紛争や多発する自然災害により、世界中で苦しんでいる人々がいます。その現実を直視し、国際活動に参画する人材を積極的に育成していくほか、開発協力事業のサポートや国際人道法の普及など、今、できることを着実に遂行していきます。

平成29年度歳出予算内訳

救護・救援活動	356,721千円	24.8%
奉仕団・青少年赤十字の支援	190,679千円	13.2%
救急法等講習会の実施	83,659千円	5.9%
献血推進	20,814千円	1.4%
看護師養成	14,400千円	1.0%
赤十字会員（社員）の加入促進	168,142千円	11.7%
広報活動	73,952千円	5.1%
福祉施設の運営	134,312千円	9.3%
社屋修繕	31,030千円	2.2%
災害等資金積立金	45,000千円	3.1%
活動の運営管理	321,291千円	22.3%

※事業計画の詳細については、東京都支部ホームページをご覧いただけます。

<http://tokyo.jrc.or.jp/> [日赤 東京](#)

東京都支部130周年を迎えるにあたって

皆さまには、日頃から赤十字事業に多大なご支援、ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

今年は、日本赤十字社の前身である博愛社の創立から140周年、東京都支部は創立130周年の節目を迎えます。こうしたことから、今年を、未来に向けて新たにスタートする年と位置づけ、今後10年間の東京都支部の中長期ビジョンとして、「東京都支部近未来ビジョン130」を策定しました。これまで築いてきた歴史を尊重しながら、未来への方向と決意をここに示しています。

また、それを基盤として策定した平成29年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)については、2月10日に行われた平成28年度第2回評議員会で審議が行われ、原案のとおり承認されました。

今後とも、様々なパートナーと共に鳴り、社会の共感を得ながら、人々が支えあう安全・安心な社会づくりに貢献していきます。

日本赤十字社東京都支部支部長

ナ・ヒ・百合子



45人の評議員により審議され、承認されました

東京都支部近未来ビジョン130

東京都支部の130周年を契機に10年間をひとつのスパンと捉え、140周年(平成39年度)までの近未来における事業構想を「東京都支部近未来ビジョン130」として策定しました。これまで築かれてきた歴史を尊重しながら、未来に向けて、私たちが

いちさんまる

130
th
Anniversary

日本赤十字社 東京都支部

進む方向と決意をここに表現しています。

人が支え合い、苦しむ人が救われる社会であるために、赤十字の理念に共感していただける方々と、これからも一緒に歩んでいきます。

東京都支部が目指す10年後の姿

様々なパートナーと共に鳴り、社会の共感を得ながら、人々に信頼され、安全・安心を与え続けられる存在。

Vision 1

災害と向き合う

災害大国日本の首都東京において、大災害に対する救護活動をさらに強化するとともに、被害を軽減する防災・減災を広める活動を積み重ねて災害に強い社会の実現に貢献します。また、被災された方々のニーズに沿った支援とは何かを追求し、実践していきます。

Vision 3

社会と共生する

社会情勢の変化や多様化が進み、それに付随して新たな支援ニーズが生み出されています。そうした時代の流れに対応していくために必要な動きが取れる体制作りを進めます。

東京都支部近未来ビジョン130のスローガン

人が支え合う安全・安心な社会づくりに貢献するために、赤十字はヒタムキに、ジミチに取り組みます。

Vision 2

人の力を集める

「苦しんでいる人を救う。」という赤十字の理念に共感し、共に活動する人々を一人でも増やして支援の輪を大きくしていくために、様々な人々と強い信頼関係を築いていきます。

Vision 4

未来につなぐ

これまでの歴史で赤十字が育ててきた「人を思いやる心」をこれからの方々に引き継いでいくために、人道教育や世代をつなぐ取り組みを積極的に行っていきます。

人々が支え合う
安全・安心な社会

特集

地域で社会で支え合う赤十字

赤十字は、活動に参加いただいている方と、活動資金にご協力いただいている方を、「赤十字」の一員と考えています。

皆さまからの活動資金によって、災害時には自治体や地域住民の方々と協力して救護活動を展開します。同時に、災害救護用資材の提供や減災セミナーの開催などを通じて、皆さまの地域活動も支えています。

今回の特集では、会員の皆さまが具体的に赤十字とどのように関わっているのか、普段は見えにくい、地域・社会と赤十字の支え合いについて紹介します。



ごはらかとし
減災セミナーで講師を務めた東京都支部振興課 郷原貴利係長は「セミナーは楽しくおもしろく！がモットー。楽しければ、記憶に残りますから」と話します。減災セミナーについてはp14-17に掲載しています。

©Natsuki Yasuda/studioAFTERMODE

表彰制度について

活 動資金へのご協力金額に応じて、各種感謝状や有功章などを贈呈しています。表彰の対象者には、毎年開催されている東京都赤十字大会で、日本赤十字社名誉副総裁から直接感謝状などが授与されることがあります。詳しくは日本赤十字社東京都支部ホームページをご覧ください。



<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kyoryoku/shikin/seido.html>

<有功章の種類>

銀色有功章…一時または累計額が 20 万円以上 50 万円未満の活動資金へのご協力をいただいた個人・法人等に贈呈

金色有功章…一時または累計額が 50 万円以上の活動資金へのご協力をいただいた個人・法人等に贈呈

※法人・団体の銀色及び金色有功章、個人の銀色有功章は「楯式」、個人の金色有功章は「勲章式」となります



日本赤十字社名誉副総裁から直接感謝状などが授与されることがあります



金色有功章で贈呈される勲章と楯。左から女性用勲章、男性用勲章、楯（法人）

活動資金に協力するには？

以 下のような方法で募集しています。「苦しんでいる人を救いたい」という赤十字の理念に共感していただける方のご協力をお待ちしています。

- 1) 赤十字運動月間（5月）を中心に行われる戸別訪問
- 2) 赤十字施設や区市町村の担当窓口
- 3) 郵便局・銀行でのお振込み、預金口座振替やクレジットカード決済
- 4) コンビニや協力店舗にあるチャリティーボックス
- 5) 広報誌『NT』貼付の振込用紙を使用（P28をご覧ください）



町会・自治会のご協力を得ながら、赤十字協賛委員や赤十字奉仕団員等が戸別に訪問させていただきます



「会員」って何ですか？

日 本赤十字社は会員で構成されています。具体的には、日本赤十字社の活動に共感していただき、会員となる意思表示をされた個人・法人の方々です。日本赤十字社は、会員の皆さんを赤十字の「支援者」と考えており、一人でも多くの方から共感していただけるよう努めています。

平成 29 年 4 月 1 日から「社員」を「会員」と呼ぶことになり、これまでのように 500 円以上（自安）の協力者は「協力会員」という名称になりました。2,000 円以上ご協力いただき、会員になることを希望された方には、業務内容や収支報告をお知らせする広報誌『NT』を送付いたします。



私たちの寄付が災害救護にも役立つ

——「会員」の声

すくも けいこ 勅子さん 評議員／代議員／赤十字奉仕団東京都支部委員会
名誉委員／武藏野市赤十字奉仕団委員長

昭 和 59 年から武藏野市赤十字奉仕団に所属しています。40 代の頃からになります。母が奉仕団員だったこと、亡くなる時に日赤病院にお世話になったことから、自然に参加することになり、その時から赤十字の会員（当時は社員）です。武藏野市赤十字奉仕団は昭和 24 年に設立。都内では 3 番目にできた奉仕団でした。

武藏野市には町会がないので、奉仕団員が一軒一軒お宅を訪問して活動資金を集めています。入団した最初の頃は、「活動資金」と言わっても何のことかわかりませんでした。でも、お宅を訪問すると、皆さん「赤十字だから」と快くお金を出してくださいました。私も奉仕団員になってから赤十字について勉強して、赤十字が活動資金で成り立っていること、私たちが出すこのお金が日本や世界の災害救護に使われているということを知りました。同時に、「周囲にもきちんと伝えなければいけない」と思いました。「自分から広めようとしなければ広まっていかない」とも。

金額の大小に関わらず、寄付は本当に尊いもの。赤十字のことをきちんと説明して、次世代にもつないでいきたいと思っています。

日本赤十字社の活動は、赤十字の理念に共感し、支援してくださる「会員」の皆さんによって支えられています。災害救護や防災・減災への取り組み、救急法等の講習普及活動などは、すべて「会員」の皆さんからの支援がないと成り立ちません。とはいって、「そもそも会員って？」と思う方も多いのではないかでしょうか。そんな皆さまの疑問にお答えします。

知っていますか？ 赤十字「会員」のこと。

支えてくれて
ありがとう！





皆さまからの活動資金で、地区に防災テントや炊き出し釜、緊急車両などを配備しています



昨年の品川区内の総合防災訓練には、日赤職員も参加



品川区内で子どもたちを対象に行った減災セミナー
(品川区立中延小学校)



昨年6月に行われた避難所訓練でロープワークを伝授(品川区立中延小学校)

お買い物のついでに献血も
献血バスがやって来ます！



日時：6月3日(土) 10:00～11:15
12:30～16:00

場所：東急池上線・荏原中延駅前

の魅力を知りました。
誰でもできる
応急手当が学べる

——中延一丁目町会では、減災セミナーも積極的に開いていただきたいと思いますが、受けてみていかがでしたか？

江森 赤十字の減災セミナーは、高齢者や子どもなど誰でもできる応急手当を教えてくれるのがいいですね。地域の学校にも積極的に開催を働きかけています。子どもたちも、遊びながら学べるのが良かったみたいで大盛り上がり。こうした知識があれば、いざという時、みんなも助かると思います。

阿世知 同じようなセミナーは他の団体もやっているけれど、赤十字のセミナーは奉仕の精神が伝わる

ところがいいよね。PTAの役員さんから相談を受けた時も、「日赤さんのセミナーにしたら」とアドバイスしてあげました(笑)。

山際 学校は難しかったとして

も、PTAは相手が地域住民なので、減災セミナーも、もっとやりようがあるかもしれませんね。

赤十字の理念に

共感しているから

——活動資金の募集でのご苦労などは？

江森 苦労と思うと、何でも苦労になってしまいますから(笑)。

阿世知 町会費を払ってくれない人もいる中で、「なぜ赤十字に？」と言つ人がいるのも事実。最近は、「町会に助けてもらわなくとも自分でやれます」という「個人主義」

が多く、町会や赤十字ボランティアの扱い手も減っていくのかなと感じています。

——そうしたなかでも品川は、大変ご奮闘いただいています。

阿世知 品川区で寄付が多いのは、品川区政の3本柱である「福祉・防災・教育」と、「どんな条件下でも人の命と尊厳を守る」という赤十字の理念が通じ合っているからだと思います。赤十字の理念に共感しているから、こんなに協力しているんですよ(笑)。

江森 災害救護以外の寄付の使い道がもつとハッキリわかれば、寄付しようという人も増えるので

——最後に、赤十字の活動に対するご意見をお願いします。

江森 災害救護以外の寄付の使い道がもつとハッキリわかれば、寄

付しようという人も増えるので

阿世知 私たちが活動資金の募集に取り組むのは、日赤さんに期待しているから。そのためにはPRをどんどんやるべきだし、町会

にも踏み込むべきでは？ もっと団々しくなつていいと思いますよ。

山際 区役所にとつては、赤十字は住民の自治活動を後押ししてくれるありがたい存在。品川区はベースとなる地域活動がバツチリ

ナーナなど、日赤からの支援を活用しています。赤十字は、いざとい

う時だけでなく、実はふだんからもいいことをやっている。DVDを作ったのは、もっと区民に知らせたいという思いからです。

昆 私も、赤十字の魅力をもっとPRしていきたいです！

活動資金の募集や献血に大活躍。 品川区中延一丁目町会の思い

赤十字は地域の皆さんに支えられていますが、同時に赤十字も、災害救護用資材の提供や減災セミナーの開催などを通じて地域の活動を支援しています。品川区赤十字奉仕団では、東京都支部の減災セミナーを広めようと、活動紹介のDVDまで製作してくださったほど。赤十字という「資源」を活用しながら地域を盛り上げている、そんな同奉仕団の主要メンバーである品川区中延一丁目町会の皆さんにお話を伺いました。

聞き手・NT編集部



赤十字には「愛」がある！ だから支えたい。

赤十字は「献血と病院」だけではない

献血を通じて若い頃から

力いただき、本当にありがとうございます。はじめに、皆さんの赤十字との出会いや関わり方について教えていただけますか？

阿世知 献血を通じて若い頃から知つていましたが、意識を持つようになつたのは町会に関わるようになつてから。なぜ献血が必要なのかも理解し、ボランティアなど多くの人が関わっていることも知りました。社会福祉も手がけていました。「日赤＝献血と病院」というイメージがガラッと変わりました。

毎年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。数年前に活動20年の表彰を受けましたが、私は表彰状が欲しいわけではなく、生活の継続というか、寄付にご協力いただいています。

江森 毎年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。今年は6月3日に荏原中延駅前で献血を募ります。赤十字のことを身近に感じてもらいたいながら、

自然な気持ちで協力しています。自然な気持ちで協力しています。

江森 每年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。今年は6月3日に荏原中延駅前で献血を募ります。赤十字のことを身近に感じてもらいたいながら、自然な気持ちで協力しています。

阿世知 献血を通じて若い頃から知つていましたが、意識を持つようになつたのは町会に関わるようになつてから。なぜ献血が必要なのかも理解し、ボランティアなど多くの人が関わっていることも知りました。社会福祉も手がけていました。「日赤＝献血と病院」というイメージがガラッと変わりました。

毎年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。数年前に活動20年の表彰を受けましたが、私は表彰状が欲しいわけではなく、生活の継続というか、寄付にご協力いただいています。

江森 每年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。今年は6月3日に荏原中延駅前で献血を募ります。赤十字のことを身近に感じてもらいたいながら、自然な気持ちで協力しています。

阿世知 献血を通じて若い頃から知つていましたが、意識を持つようになつたのは町会に関わるようになつてから。なぜ献血が必要なのかも理解し、ボランティアなど多くの人が関わっていることも知りました。社会福祉も手がけていました。「日赤＝献血と病院」というイメージがガラッと変わりました。

毎年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。今年は6月3日に荏原中延駅前で献血を募ります。赤十字のことを身近に感じてもらいたいながら、自然な気持ちで協力しています。

江森 每年、5月は活動資金の募集、6月は献血に取り組んでいます。今年は6月3日に荏原中延駅前で献血を募ります。赤十字のことを身近に感じてもらいたいながら、自然な気持ちで協力しています。

阿世知 私たちが活動資金の募集に取り組むのは、日赤さんに期待しているから。そのためにはPRをどんどんやるべきだし、町会

にも踏み込むべきでは？ もっと団々しくなつていいと思いますよ。

山際 区役所にとつては、赤十字は住民の自治活動を後押ししてくれるありがたい存在。品川区はベースとなる地域活動がバツチリ

ナーナなど、日赤からの支援を活用しています。赤十字は、いざとい

う時だけでなく、実はふだんからもいいことをやっている。DVDを作ったのは、もっと区民に知らせたいという思いからです。

昆 私も、赤十字の魅力をもっとPRしていきたいです！



1 肩や背中をさすってあげるリラクゼーションでは「愛情を込めてくださいね」という講師の言葉に受講者も思わず笑顔に／2 三角巾のたたみ方を伝授。たたみ方によって大きさが変えられる三角巾は、様々な傷やけがの応急手当に活躍／3 骨折時の腕の吊りのデモンストレーション。コンビニなどのポリ袋の片側を切り開いて首からかけることでも代用できる。傷病者役の地域推進課 小林有希主事は「災害時に大切なのは想像力。身の回りのものをどう使ったら手当できるか、考えてみることが重要なんですね」と語ります／4 2人1組のバディ同士で応急手当の実践練習。「大丈夫ですか？」の一言から、自然に会話が生まれます

©Natsuki Yasuda/studioAFTERTIME

Facebook でも NT が読みます！





(左から) セミナー中、シャッターを切る安田さん／毛布ガウンを体験。「両手が使えるのがいいですね」／額の止血では、手当をしながら相手の観察を忘れないことが大切

あげるリラクゼーションをお互いにやってあげながら、自らも効果を実感。安田さんも、すっかり奉仕団の一員になつたような和やかな雰囲気のなか、セミナーは終了しました。

一緒にやりませんか？
「非常食キャンプ」

セミナーを終えた安田さんは「東日本大震災の時、医師だった義理の父は、不眠不休で医療活動を続け、一ヶ月後には陸前高田を離れる見えないほど消耗してしまいました。被災者自身が、避難所などで簡単な止血は自分たちでやつて、様子を見てからお医者さんにかかるといったことができれば、医師にかかる負荷を少しは軽減できるかなと思いました」。セミナーの中では、備蓄している非常食は賞味期限を見て定期的に消費しよう、という話もありました。が、安田さん自身、キャンプや釣りの時に友人を誘つて非常食を食べているそうです。「結構美味しいね、買ってみようかな、という話になりますよ」とのこと。「こうしたこと

皆さんからの寄付を、地元に還元したい



立川市赤十字奉仕団
金子利津子委員長

立川市赤十字奉仕団は、188人の団員が10班に分かれ（平成26年度）、平日は毎日、献血ルームと血液センターでボランティア活動に取り組んでいます。地域の防災訓練にも参加し、炊き出しの手伝いや三角巾の使い方の講師なども。金子利津子委員長は「5月の運動月間では地域の皆さんから大切な寄付をいただいていますが、それを地域に“お返し”するつもりで、さまざまなボランティア活動をしています」と語ります。



立川市役所福祉総務課
浅井元さん

浅井さんは、配属3年目。「三角巾の使い方を知ることができて、とても良かった。こうした講習は繰り返し受けることが大切ですね！」

を実際に体験することで減災震の多くが日本に集中しているという話を聞いた安田さん。「それだけ、地震に対応するスキルが日本にあるということ。世界各地で災害が起きているなか、こうしたスキルをどんどん外に手渡していくのではないでしょうか」。

また、世界で起きている地震の多くが日本に集中している「それだけ、地震に対応するスキルが日本にあるということ。世界で災害が起きているなか、こうしたスキルをどんどん外に手渡していくのではないでしょうか」。

NTファンミーティング クロストークライブ3

～知る、国際情勢と 考える、人道危機～

世界では今、1億3000万もの人々が支援を必要としています。トークライブでは人道問題を捉えたショートフィルムを上映し、ゲストコメンテーターの安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）に、感想やご自身の活動体験をお聞きしながら、国際情勢について皆さんと考えていきます。

日時▶5月7日（日）14:00～16:00

会場▶東急プラザ表参道原宿 6階おもはらの森

主催▶日本赤十字社東京都支部

ゲストコメンテーター▶フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん

※入場無料。詳しくは「NT」貼付(P28)の告知フライヤーをご覧ください。

赤十字にふれられる街『表参道』

5月は赤十字運動月間。創設者のアンリー・デュナンの誕生日（5月8日）にちなんで、全国で展開しています。5～6月は、表参道へお越しください。櫻の新緑が美しい表参道に“赤十字”があふれているはず。あなたなりの赤十字を感じてみて！



今年で20周年を迎える新潟県のアンテナショップ。新潟県産の米や酒など名産品の販売や、趣の異なる2か所のレストラン、観光センターもあります。

渋谷区神宮前4-11-7 / 営業時間: 10時30分～19時30分 (物販店舗。テナントにより異なります) / ☎03-5771-7711 (代)

2009年の赤十字運動月間に赤十字旗を掲揚してから今年で9回目。櫻の新緑に赤十字の赤が映える様子は5月の風物詩になってきているように感じます。明治神宮にお祀りされている昭憲皇后が日赤の黎明期を支えられていたというご縁もあり、明治神宮の表参道に生活する者として、普段の生活の延長線上で協力していくべきと考えています。

渋谷区神宮前 6-9-1 B1F / ☎03-3406-4303



松井 誠一 理事長

Map の見方

1 ……赤十字フラッグキャンペーン参加店の地図番号

2 ……活動参加

3 ……協力項目



武藏野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武藏野市境南町1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日（赤十字創立記念日）、年末年始
- 病床数 611床（一般528床、ICU 8床、HCU 22床、CCU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症20床）

待ちに待った春。それなのに、気持ちが沈んで憂うつな気分が続くことはありませんか？ それは「五月病」かもしれません。

心療内科・
精神科部長
仲谷 誠
Makoto Nakaya



春の「心の不調」には要注意！

いわゆる五月病について

1980年代頃から五月病といふ言葉が、新聞やマスコミなどに登場するようになりました。もともとはアメリカで、理由のはつきりしない長期留学大学生を指した言葉ですが、日本でも仕事や学業を長期に休んでしまう若者に、この言葉が使われるようになりました。

入学や就職による環境や人間関係の変化・達成感後の虚脱感・予想と現実のギャップなどによる精神的な「疲れ」から、軽い抑うつ気分や不安、さまざまな身体症状を訴えて休んでしまう人が5～6月に目立つようになつたため、五月病という言葉がぴったりだつたのでしょう。

社会人の五月病も増加

「五月病」の背後には、「世界は自分に何を求めているか」「自分とは何か」「何になるのがふさわしいか」「世界に自分の占める場所はあるか」といった、青年期に特有とする心の問題があります。これは「自己同一性」や「アイデンティティ」という言葉で語られます。

るので、耳にされたことがあるかもしれませんね。

しかし、「自己同一性」は社会状況と深く関わります。地域共同体の弱体化・社会的規範の弱体化・価値観の多様化・経済的不況など、社会的な変化が激しい時代では、社会人の五月病も増え、青年期の「実存的問題」よりも職場に適応できるかどうかといった労働衛生問題として受け止められることが多いくなっているようです。

気軽に心療内科の受診を

いずれにしても、まじめな人ほど内面的な葛藤に陥りやすく、仕事や学業をこなすことができなくなるようです。五月病の人に必要なのは、焦らないこと、固く考えすぎないこと、親しい人とホットする時間を持つことなどではないでしょうか。

それだけでは難しいときには、心療内科や精神科を受診することが解決につながることもありますので、気軽に医療機関を受診されることをおすすめします。



PSA検査を受けましょう！

早期発見で治る病気に

Hospital Referral

大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始 (急患は随時)
- 病床数 344床 (一般326床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

超高齢社会を迎え、男性の平均寿命も80歳を超えました。健康で長生きするために、ぜひ受けていただきたいのがPSAの検査。Prostate Specific Antigen (前立腺特異抗原) の略で、とても優秀な前立腺がんのマーカーです。

前立腺がんと関連が深いものとしては、①生活習慣(食事・運動・嗜好品など)、②肥満・糖尿病・メタボリック症候群、③前立腺の炎症・感染、④前立腺肥大症や下部尿路症状、⑤環境因子や化学物質への暴露、などが挙げられます。ふだんの生活では、適切な食事や運動を通じて肥満や糖尿病を防ぐことが、予防につながるといえるでしょう。

前立腺がんと関連が深いものとされています。

迫る勢いで、肺がんを抜いてもなく首位になることが予測されています。

前立腺がんは、近年の報告では全世界の男性がんの14・8%を占め、死亡数は年間約31万人に達します。日本でも罹患数は10万人に

男性にとってメジャーな前立腺がん

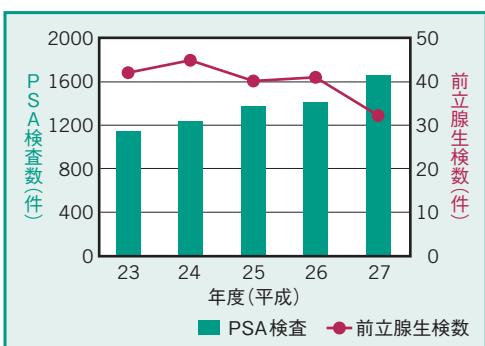
前立腺がんは、前立腺肥大症や前立腺炎などの病気が知られています。前立腺がんのほかにも、前立腺肥大症や前立腺炎などの病気が知られています。

検査は採血するだけ！

早期の前立腺がんは無症状であることが多い、治療法も手術、放射線、ホルモン、抗がん剤とバリエーションに富み、根治も可能です。進行したがんであっても、これらの治療を組み合わせることにより改善が期待できるケースも多くあります。ひと昔前は、いきなり下半身が麻痺してしまい、調べてみたら前立腺がんの背骨への転移だったということもよくありました。現在はPSA検査の普及により、こうしたケースは少なくなりました。

異常が見つかったら泌尿器科へ

PSA検査で異常が見つかった場合は、泌尿器科を受診してください。診断には前立腺生検(前立腺に針を刺し組織を採取する検査。当院では1泊入院、局部麻酔もしくは腰椎麻酔で実施)を行います。50歳以上で、特に父親や兄弟に前立腺がんがある場合は、検診時にPSA検査をお忘れなく！



PSA検査数と前立腺生検数の推移



当院泌尿器科のスタッフたち

JRC KATSUSHIKA MATERNITY HOSPITAL

社会的課題を抱えた妊産婦を支える

切れ目のないサポートを!

葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211 (代表)
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床 (産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

葛飾赤十字産院では、2016年4月に「妊産婦支援チーム」を発足させました。社会的にリスクを抱えている妊産婦に対し、切れ目のない支援をめざしています。

「妊産婦支援チーム」は、産婦人科外来・小児科外来・NICU（新生児集中治療室）を担当する助産師や看護師とソーシャルワーカー、臨床心理士、医事課職員の計8人で活動しています（図参照）。まず産婦人科外来で、支援が必要と考えられる患者さんを見つけ、「妊産婦支援チーム」で支援の

スティック・バイオレンス）などの課題を抱える方のこと。

「妊産婦支援チーム」は、このような患者さんに受診の早い段階から関わり、他の医療機関や地域と連携し、生まれてくる子どもの安全と患者さんの意思を尊重した育儿環境の調整を行うことを目的としています。

多職種が共同でサポート

近年、当院を受診される患者さんのうち、「社会的ハイリスク妊婦」が増えています。

「社会的ハイリスク妊婦」とは、周囲から育儿のサポートを受けられない方、経済的な不安を抱えている方、10代での妊娠、DV（ダメ

後、助産師による個別の保健指導、ソーシャルワーカーから支援についての情報提供、臨床心理士による心理相談などを行います。

育児を1人で行うのはとても難しいことですが、「子どもを育てたい」という気持ちと周囲のサポートがあれば、より安心して育てることができます。

私たちは、妊産婦さんの気持ちに寄り添い、より良い方向へ歩み出せるような支援をしていきたいと考えています。

経済的な面に不安のある方は、医事課が相談にのります。また、患者さんに関わる医師、看護師・助産師、コメディカルスタッフ（医師以外のスタッフ）とも情報を共有しています。退院後、母子の本身の安全性が危ぶまれると判断した場合は、地域の関係機関とカンファレンスを行います。

経済的な相談もOK

方法について検討します。その後、助産師による個別の保健指導、ソーシャルワーカーから支援についての情報提供、臨床心理士による心理相談などを行います。

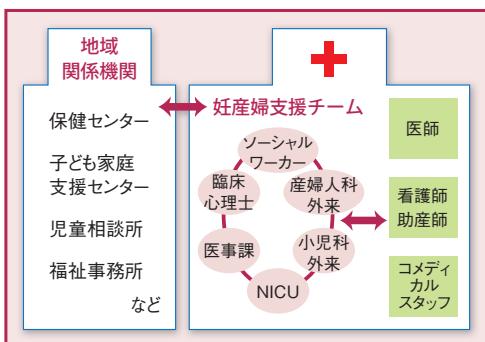


図 支援チームの構造



ミーティングで情報を共有



初めての献血のこと、覚えてますか？



平

成27年度に東京都内で
初めて献血にご協力い



Profile ● 美山 加恋 (みやま かれん)
女優。1996年12月生まれの20歳。テレビドラマ「僕と彼女と彼女の生きる道」(2004年)で注目を集め。TVアニメ「キラキラ☆プリキュアアラモード」では、主人公・いちかの声を担当。

ただいた方は、約4万1000人。そのうち約3万人は10代と20代の方々です。初めての献血のきっかけは、「高校卒業の記念に」「空き時間があったので」「たまたま献血バスがあったから」など、さまざま。今回は、20歳の誕生日をきっかけに献血に初挑戦した女優の美山加恋さんにお話を伺いました。

――今回、なぜ献血してみようと思ったのでしょうか？

武藏野赤十字保育園

3歳児たちが
「むし歯オバケをやっつけろ！」



武 蔵野赤十字保育園では1月13日、3歳児30人が「はみがき集会」を行いました。はじめに、看護師がパネルシアターを使って、「むし歯がなぜできるのか」や、歯みがきの大切さについてお話ししました。その後、シアターの主人公「ひろし君」が、キャンディやチョコレートを食べた後、歯みがきせずに寝てしまったため、むし歯の痛みに泣くことになり、歯みがきをしっかりするようになった物語を聞き、歯みがきの大切さを知りました。

「こんにちは」と「さようなら」の持ち方

パネルシアターの後は、実際に歯ブラシを持ってみがき方の練習。歯ブラシの持ち方には、「こんにちはの持ち方」と「さようならの持ち方」の2通りがあります。「こんにちは」から「さようなら」に持ちかえるには、手の中で歯ブラシを回転させなければならないのですが、園児たちはとても上手に持ちかえていました。お友達同士で、ちゃんとできているか見せあいっこも。

看護師からは、歯ブラシを口に入れたまま歩かないこと、歯みがきをしているお友達を叩いたり、歯ブラシを振り回したりしないことなど安全面でのお話もありました。

赤十字子供の家

「家庭」を体験できる
里親制度を広めたい

赤 十字子供の家では、児童養護施設と同じく社会的養護の制度である「里親委託」に積極的に取り組んでいます。施設で暮らす子どもの中には、親がいなかつたり家族との交流が十分にできないケースもあり、「家庭」とは何かを知らずに育つこともあります。そのような子どもたちが家庭生活を経験し、温かい愛情に包まれながら心身ともに成長するためには、里親が必要です。子どもの状況に応じて、里親委託が望ましい場合は、施設で里親と交流して関係を育み、里親宅での家庭生活につながるよう支援します。

里親支援の専門相談員を配置

当園では里親支援専門相談員を配置し、里親委託を推進しています。園内での里親子の交流支援やアフターケアを行うのはもちろん、地域の里親サロン等に参加して相談を受けるなどの協力もしています。里親制度の普及啓発活動にも力を入れており、各市区町村で開催される養育家庭体験発表会や、図書館での里親関連本の展示など、児童相談所や子ども家庭支援センターと連携して活動しています。

里親制度が社会に広く理解され、里親として協力してくださる家庭が増えるよう、今後も力を尽くしていきます。



里親制度にご興味のある方は、
当園までご連絡ください。

赤十字子供の家

TEL: 0422-31-8283 (担当: 竹前)



災害に強い地域づくりを支援

～フィリピン中部台風の復興支援事業～



2

013年11月の台風「ハイエン」で被害を受けたフィリピンで、日本赤十字社は被災直

中心部から4時間の北部ダアンバアンタヤンの復興支援に取り組んできました。武藏野赤十字病院の渋谷美奈子看護師は、2016年4月～12月の間、保健支援を目的に派遣されました。

日本赤十字社と連携しながら、復興支援事業として村の保健施設、学校の修復・再建や、災害看護教育プログラムの実施、フィリピン赤十字の災害対応能力強化に向けたコミュニティボランティアの活動などを展開しました。渋谷看護師はこのうち、手洗いや歯みがきの徹底など、地域の保健衛生環境向上の活動に従事。現地では、認知が低い赤十字の存在や活動について住民に理解していただく取り組みや、周知も行いました。

活動の成果として渋谷看護師は、「トイレ後の手洗いや食事後は、「こんにちは」と「さようなら」の持ち方



の歯みがきは子どもたちに浸透したと思う」と語っています。一方、教訓としては、外科処置セットや車イス、医療器具の保管棚などの支援物資が有効に活用されていました。今回の復興支援事業は、セブ島北部地域の安全や災害への対応力向上を目的としてきました。住民の赤十字に対する理解が高まっています。住民の赤十字に対する理解を醸成するとともに、防災教育や応急処置の講習などを実施され、「保健衛生などを知識として吸収してもらうこと」が地域の対応力の向上につながるのではないか」と渋谷看護師は話しています。

同事業は2017年3月末で終了しましたが、今後はフィリピン赤十字の支援によって、力をついたボランティアの住民が主体となり地域の安全・保健衛生環境の向上に取り組んでいきます。

看護師
渋谷 美奈子
Minako Shibuya

看護師として武藏野赤十字病院に勤務。整形外科・消化器科・感染症科などを経験。台風「ハイエン」が直撃した2013年もフィリピンに派遣中で、ボランティアとして物品の支援業務などに従事した。



派遣中は、中高生に手洗いや歯みがきの重要性を伝える衛生教育に従事した



現地の看護師に医療器具の使い方を指導する渋谷看護師

日赤東京都支部のランジがリニューアルオープンした!? 今回はそんなホットな話題にトリゲキします!! とっても落ち付く、日赤ならではの空間が広がっていました。



行け！ ○レポーターが★日赤とげきレポ

- Vol. 7 NT Lounge 系編 -

新東京都支部の
受付前ラウンジが
N Tラウンジ とて
リニーアルしたと聞こえ
ソーラキス林にきました

本棚には、
「世界の入る」というテーマで
多量の本が並んでいます。

暖色の
間接照明が
リラックス

綠色方案！

昔ラウノジ
ナニヤウ
ナニヤウ

1

写真家の
菅原一樹先生の
(日赤契約カメラマフ)
作品も美しい…!

看板は
「日赤の職員さ
うせつ」

三九

26

ここは
監督室
で

救急法などの
セミナーも
開催できう!

オーランスペースだから
通りがかりの人も
興味を尋ねるね。

くつろぎすきう
オカモト

愛付で記帳すれば
誰でも自由にくつろげる
スペース NTラウンジ

田舎とわたいだよ
つねぐスやースだも
あるんだね！

2017年5月1日(月)～31日(水)

毛正属(まきやうぞく)にせみ

今までの作品を一挙公開！

福島の駅がからくらまちありまつ

5月1日(月)～6月30日(火)

表參道原宿店 サマ
東京・渋谷・原宿・新宿

全てを語り下ろしの新刊!

※・詳細はP.28「カーデザイン」★



日本赤十字社東京都支部の協賛企業によりご提供いただいています。
ご応募、お待ちしています!

A.



165ml
24本入り
3名様

FIRE 挽きたて微糖

豆本来の味わいを引き出す製法で、上質な香りと味わいを実現しました。

B.



500ml
24本入り
3名様

午後の紅茶 ミルクティー

●東京キリンビバレッジサービス株式会社
スリランカ産キャンディ茶葉を使用。苦み・渋みのない濃厚な味わいに仕上げました。

C.



5名様

ダイアナオリジナルマグカップ

靴のイラストが書かれたマグカップ。日本製です。

D.



5名様

本革オリジナル名刺入れ

●ダイアナ株式会社
牛革製のカラフルな名刺入れ。靴に使用する材料と同じ革で製作しています。

E.



500ml
24本入り
5名様

カラダカルピス

●アサヒ飲料株式会社
「カルピス」に独自の乳酸菌「Lactobacillus amylovorus (ラクトバチルスアミロボラス) CP1563 株」を配合。体脂肪を減らす乳性飲料です。

F.



5名様

オリジナルトートバッグ & ペン

●表参道・新潟館ネスパス
「表参道・新潟館ネスパス」のロゴを、新潟の職人たちが手作業でプリントしたトートバッグ。ロゴ入りの消せるボールペンとセットで。

G.



1本入り
5名様

フルーツハーブティー(バニラ&アップル)

●株式会社 京橋千疋屋
ハイビスカス・ローズヒップをベースに、フルーティなアップルとバニラの優しい香りを加えたオリジナルブレンド。

プレゼント応募方法

①氏名 ②郵便番号 ③住所 ④年齢 ⑤性別 ⑥本誌入手場所
⑦本誌の感想(100文字程度)⑧希望するプレゼント番号を明記し、はがきまたはメールで下記までご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! 締切は2017年5月31日。当選者は次号誌面で発表します。

■ 件名には「プレゼント応募」とご記入ください。

はがき ▶ P28の専用はがきでご応募ください。

メール ▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。
※お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります。

協賛品募集中! お問合せは▶ nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp



読者の声
(vol.12)

特集内の「生きることについて考えた。」の記事はすごく心に響きました。受血者加藤さんの「誰がいつ何時必要になるかわからない」という言葉を忘れずに、今後も100回の献血を目指して献血ルームに通います。

練馬区・35歳・女性(吉祥寺献血ルームタキオン)

バックナンバーはこちら
<http://www.tokyo.jrc.or.jp/kohoshi/>

前号のプレゼント当選者

A 三ツ矢サイダーW

山下 敏史 (新宿区)
松岡 豪 (目黒区)
佐藤 かえで (中央区)
高野 洋一 (渋谷区)
長田 ちひろ (新宿区)

B 小岩井 純水ぶどう

遠藤 由梨 (神奈川県相模原市)
石川 泰成 (埼玉県桶川市)
杉山 博史 (府中市)
石橋 淳 (新宿区)
武澤 葉子 (墨田区)

C TAEKOサンスクリーン

田中 初美 (世田谷区)
儀我 有子 (練馬区)
大槻 真紀 (渋谷区)
堤 麻紀 (神奈川県川崎市)
辻 智子 (武蔵野市)
豊岡 麻衣子 (練馬区)
秋田 勇治 (大田区)
松下 伶奈 (渋谷区)
高野 真理子 (大田区)
室山 ゆり (練馬区)

※敬称略・順不同

気軽に気持ちで献血に参加していたので、実際に自分の血がどこかの誰かの役に立っているという意識は希薄でした。献血を介して患者さんから患者さんのご家族へと命がつながっている事がとても不思議でした。

渋谷区・29歳・女性(献血ルーム新宿ギフト)

※()はNTの入手場所

赤十字は、ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。」
と言われることがあります。

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解されやすいかもしません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることができます。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に対する取り組みなど、皆さまの身近なところで活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが当たることのないジミな活動も大切にします。

これが赤十字のジミチです。

「赤十字子供の家」移転改築の地鎮祭を開催

日本赤十字社東京都支部は3月9日、赤十字子供の家の建設予定地（武蔵野市境南町1-10-4）で移転新築工事の地鎮祭を執り行いました。雲ひとつない快晴のなか、職員や設計会社社員など関係者25人が参列し、滞りなく工事が進むよう祈念しました。

鍵入れを行った赤十字子供の家の寺田政彦園長は、「子どもたちが安全・安心に暮らせることが私たちの一番の願いであり責務。そのため工事がスムーズに進むよう、思いを込めました」と話しました。

赤十字子供の家は、虐待やその他の家庭環境等により、施設での保護養育が必要とされる子どもたちをお預かりする児童養護施設です。現在、武蔵野赤十字病院の敷地

内にあり、同敷地内で平成29年3月に着工、平成29年度中の竣工を予定しています。移転新築にあたっては、皆さまの温かいご支援を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



鍵入れを行う寺田政彦園長

活動資金協力者(社)・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了承いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは
東京都支部 振興課 03-5273-6743まで

●千代田区		佐橋 俊彦	100万円	●葛飾区	
(一社)霞会館	300万円	藤森 博昭	33万円	小倉 茂	160万円
(株)朝日写真ニュース社	30万円	西村 好胤	30万円	島 徹	10万円
翔和建物(株)	20万円	筧 千づる	10万円	(株)衛生微生物研究センター	10万円
サンベック(株)	10万円	高橋 隆	10万円	●江戸川区	
GER(株)	10万円	山崎 達彦	10万円	吉野 茂男	200万円
(株)ノタック	10万円	三栄製薬(株)	115万円	(株)水域ネットワーク	20万円
●中央区		映心産業(株)	15万円	(株)タムラ	12万円
村越 花子	100万円	(株)石井植木	10万円	関東商事(株)	10万円
小泉 久夫	10万円	●渋谷区		●八王子市	
弥生興業(株)	10万円	小川 とみ	100万円	高野 重信	150万円
●港区		(宗)世界平和統一家庭連合	50万円	●武蔵野市	
(株)エスエルジャパン	50万円	リバブルアセットマネジメント(株)	15万7,450円	齋藤 八郎	10万円
AOLプラットフォームズ・ジャパン(株)	32万2,229円	遠藤デザイン(有)	15万円	●三鷹市	
イーパートナーズ(株)	30万円	(株)アイワホーム	10万円	木村 得玄	100万円
第一環境(株)	10万円	(株)お世話や	10万円	柿澤 康子	10万円
(株)東京プログレスシステム	10万円	国際空手道連盟 極真会館	10万円	●府中市	
(有)藤井クリーニング	10万円	(有)タヒチパール・ジャパン	10万円	草間 光一	10万円
(株)プライム・オリジンズ	10万円	●中野区		高橋 勇	10万円
●新宿区		樋口 盛一	50万円	●昭島市	
横村 武宣	50万円	●杉並区		岩崎 五六	30万円
出井 弘八	10万円	井口 清	120万円	石川 功	10万円
高砂熱学工業(株)	54万9,480円	大崎 千鶴代	10万円	●調布市	
全労災東京都本部	39万4,835円	●豊島区		田邊 美春	10万円
税理士法人アルタ東京会計事務所	10万円	(株)カーメイト	100万円	●町田市	
(株)放送サービスセンター	10万円	●北区		社会福祉法人蓮倫会 小山保育園	10万円
歌舞伎町商店街振興組合	13万円	市川 政雄	10万円	●日野市	
●台東区		(有)山崎鉄工所	10万円	土方 フミ	10万円
玉姫稻荷神社靴のめぐみ祭り市実行委員会	10万円	●荒川区		●東村山市	
●江東区		柴本 佳子	10万円	(株)一休	10万円
川島 秀正	10万円	●板橋区		●国立市	
坂元 左	10万円	若佐 和子・英彦・英之	15万円	関 儀和	100万円
江東明るい社会づくりの会	10万円	長尾 トモ子	10万円	保科 寛之	10万円
●品川区		宮川 美知子	10万円	●西東京市	
(株)オーツカ光学	110万円	河島コンクリート工業(株)	10万円	新井 節子	50万円
丸亀製麺	29万5,512円	(株)曠淳開発	10万円	吉岡 優二	15万円
品川合同葬祭(株)	10万円	●練馬区		當麻 祐子	10万円
●目黒区		若林 尚	20万円	西東京ハーモニカ音楽協会	18万5930円
津村 重臣	30万円	榎本 孝之	10万円	●東久留米市	
石井 博子	10万円	アルファ丸嶋不動産(株)	20万円	(有)松川物産	10万円
長谷川 光延	10万円	岡田設備工業(株)	10万円	●稻城市	
●大田区		金子建材(有)	10万円	中西食品(株)	10万円
太陽電業(株)	200万円	(株)三栄プラスチックス	10万円	●千葉県	
(有)丸十オリエンツ	50万円	(株)関建設工業	10万円	苦米地 巳代子	100万円
柴田不動産(株)	10万円	パイオニア工機(株)	10万円	●神奈川県	
●世田谷区		●足立区		長瀬 六郎	500万円
井上 桂子	100万円	柳川 幸一	30万円		
五来 純	100万円	(有)柳川運送	50万円		

(敬称略・順不同)

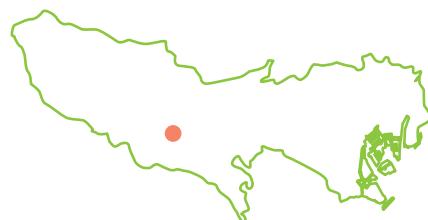


第6回 八王子市・滝山公園（滝山城跡）

JR八王子駅からバスで20~30分。最寄りのバス停で降りると、こんもりと雑木林に覆われた丘がある。「ここに桜が?」と狐につままれたような気分のまま胸突き八丁の坂道を登ると、目の前に広がる桜の群生林に息を呑んだ。

多摩川を遥か眼下に望む滝山公園は、戦国時代の山城があった場所で歴史ファンにも有名。その昔は池だったという谷状の斜面に群生するソメイヨシノやヤマザクラ、サトザクラ。樹々は谷から陽の光を求めて高く幹を伸ばし、この場所の桜たちを唯一無二の姿にしている。

桜色の幽玄な靄に包まれているようなこの空間に長い間いると、公園の外の風景が全く見えないことも手伝って、いつしか時間の感覚が歪んでくるようだった。





十 東京観光写真倶楽部
TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を<観光>しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。東京の写真を撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載が、Rediscovery TOKYOです。

菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com> 東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>



Profile ● Shun Isobe

東京理科大学工学部2年生。同大学学生赤十字奉仕団委員長。神奈川県学生献血推進連盟にも所属し、多岐にわたる活動を展開中。

わたしの一歩

ONE STEP

Vol.
04

いそべ しゅん
磯部 舜

赤十字で受け継いだものを後輩に伝えたい

大学でボランティアサークルに入ろうと思っていたわけではないんです。母親に「やってみたら?」と言われたのがきっかけです。やってみたらハマりました。いまはボランティア活動が趣味です。バイトもあまりせずに、学生奉仕団の活動にのめりこんでいます。

なぜ、赤十字だったかというと、そこにはたまたま赤十字があったから(笑)。もともと、赤十字のことは「献血をやっているところ」という程度の認識でしたが。

人と関わるのが好きで、学生奉仕団で

は違う大学の仲間に出会えると、違う価値観に触れられて刺激になります。呼びかけて大きな声を出して、献血や募金に協力してもらえると、すごい達成感がある。充実していますね。

奉仕団員になって初めての活動は、障害のある子どもたちと一緒に遊ぶボランティア。そこで「ありがとう」と言ってもらえたのが本当にうれしかった。半年後に再会したときに、僕のことを覚えてくれた子もいるんですよ。

もともと人前で話すのが苦手だったん

ですが、赤十字と出会って自信がつきました。親からも「顔つきが変わったな」と言われます。実は積極的な性格だったんだなと気づきました。

活動中、先輩に昼食をご馳走してもらったときに「この気持ちを来年の後輩に返してくれ」と言われました。こうやって次の世代につないでいくんですね。だから僕はいま、先輩たちからもらった感謝の気持ちを、後輩たちに“恩返し”しているところです。後輩たちも慕ってくれて、かわいくて仕方ないですね。



日本赤十字社 東京都支部
Japanese Red Cross Society

〒169-8540 東京都新宿区大久保1丁目2番15号
TEL 03-5273-6741 (代表) FAX 03-5273-6749 <http://www.tokyo.jrc.or.jp>

FacebookでもNTが読めます!

